

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2393000068 | | |
| 法人名 | 医療法人 寿光会 | | |
| 事業所名 | 医療法人 寿光会 グループホーム藤岡 ユニット さくら | | |
| 所在地 | 豊田市深見町四反田1033-13 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年3月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000068-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区三本松町13番19号 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年3月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のカラーでもある「スマイル」は利用者様、職員共に笑顔で毎日を過ごせる大家族を目指し環境を作っている事。利用者様一人一人に合わせたケアを実施し利用者様のQOLの向上と職員の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、医療法人が運営する事業所の一つであり、管理者、職員は、利用者が地域の中で笑顔で過してもらえるような支援に努めている。ホームと地域の関係も築けており、地域の行事開催時には、家族や職員の支援により利用者も参加して交流を行っている。他にも、中学生のボランティアを受け入れ、利用者との関わりの中で、介護についての理解を深めると共に、社会勉強になるよう時間を掛けて接している。ホームでは、職員の育成にも力を入れており、職員のレベルに合わせて、外部研修に可能な限り参加を促したり、ホーム内での勉強会を開催しながら、ケアの質の向上に努めている。また、管理者、職員は、利用者が生き生きとした暮らしを送る為には、人の繋がりが大切、と日頃から感じており、家族、地域、行政等、利用者に関わる全ての人と連携しながら、心のこもった介護を実践してい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念は玄関に掲げられており日々確認し「心の介護」はもとより職員一同笑顔を決やすことなく接し「笑顔を導くサービス」もごく自然に行われている。 | ホームでは、法人共通の理念をホーム内に掲げている。管理者、職員は利用者が笑顔で生活を送って頂くために、理念に掲げている「心の介護」という気持ちを持って明るく接するように心掛けるように、日々のケアに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域に密着したホームを目指し年間行事やイベントなどには近隣の方々に参加案内をしたり、地域の中学校や高校の生徒さん、ボランティアさんの協力にて開催している。 | ホームの利用者は、職員の支援により地域の秋祭り等の行事に出掛けたり、老人会の集まりに家族と一緒に参加し、地域住民と交流をしている。また、ホーム駐車場の一角を、地域のゴミ収集場所として提供している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティア体験で地元の中学生を年2回受け入れ、3日間一緒に過ごす事で理解が得られた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月に一回実施している。その中で施設の現状や行事などを報告し、意見交換をしている。施設行事にも参加して頂き入居者様やご家族の方と交流を持って頂いた。 | 会議は、定期的に行われ、利用者の状態を報告したり、ホーム行事についての相談等を行っている。また、参加者から、利用者の外出先に相応しい場所の紹介を得る等、会議をホームの運営に活かすように努めている。 | 現状、会議には家族の参加が少ない。今後、全ての家族への議事録送付や会議の議題を集める等、取り組みに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村主催の研修や会議等には積極的に参加し、連絡はできる限り密にとるようにしている。 | ホームの行事開催時に、地域包括支援センターの職員が訪ねて来る事もあり、その際に意見をもらったり情報交換をしている。また、管理者は、運営上で不明な点があれば市担当者に相談し、運営に反映している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の対象となる行為については職員全体が理解しており、できている。 | ホームでは、身体拘束防止について勉強会を定期的に行い職員の理解を深め、職員同士で注意し合える環境を作る事に努めている。また、管理者、職員は利用者の安全に配慮したケア方針を決定している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待はもとより威圧感や強制的な態度がないように注意を促している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在一名成年後見人制度を利用されており、その際に学習、理解している。新人スタッフにも説明している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、解約、改定の際などには、十分に説明した上で理解、納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に一度相談員さんが来所し入居者様のお話を聞いていただき外部者へ表せる。ご家族にはホーム便りを月に一度発行し、入居者様、ご家族共に話やすい環境を作っている。 | ホームでは、毎月、ホーム便りを家族に送付しており、個別で利用者の写真を送り、利用者の普段の様子を伝えたり、行事に参加を呼び掛け、家族が意見を伝えやすいように努めている。また、意見箱を設置している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に全体会という会議を開きその中で職員の提案や意見を聞くようにしている。その場で話し合える事はすぐ現場に反映させている。 | 職員は、毎日の申し送りや全体会議で意見を出し合い、ケア内容や業務について話し合っている。またホームでは、年1回、管理者が一人ひとりの職員と自己評価を基に、個人面談している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の努力や勤務態度、実績に対し報酬などにも結びつけてもらえ、やりがい、向上心がもてる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で連携し研修や勉強会を実施している。外部研修も積極的に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | できるだけ地域の研修会に参加できるよう、常にサービスの向上に努めている。同行者2名の訪問があり施設内の見学と入居者の方との交流を持って頂いた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回面接と基本チェックを参考にご本人より要望を聴取し理解に勤めている。ご本人様の思いに寄り添えるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回面接以外にも随時、話の場を設け連絡を取り合うことで信頼関係を築く事に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 両者の必要としているサービスを聞き希望に沿うように支援をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活の中でできる限り一緒に行っている。又お互いの体力や知識を活かし助け合いながら生活している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居者様へ職員が今年目標を聞き壁に張り出すことにより本人の希望を共有し叶えるよう支援ができる関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や知人が面会しやすい環境作りをし、外泊や家族との外食にも参加できるよう支援している。 | ホームに友人や知人が訪ねて来る事もあり、居室でお茶を飲んで楽しい時間を過ごしたり、職員、家族の支援により、馴染みの床屋へ出掛けている。また、利用者の中には、泊まりや日帰りで自宅で過される方もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は仲介役を行い入居者同士が気持ちよく関わりあえるような環境を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された方に対しても経過を把握し、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | できる限り本人の希望や思いを聞き希望に添えるよう支援している。 | 職員は、利用者から今年目標や希望される生活を聞いて、それらの情報を用紙にまとめて、ホーム内に掲示している。また、職員は、日常生活内での言動から思いを汲み取るよう努めている。 | 現状、利用者の生立ちや思いの把握が不十分に感じられる。今後、アセスメントシートを見直し情報を集め、利用者が希望される生活を送れるよう支援される事を期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初回面接や普段の会話から聞き取っている。家族の面会時にも聞くよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活を観察し把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを開き現状に即した計画になるよう随時変更、作成している。 | 介護計画は、基本6か月毎に計画作成者が中心になり、利用者、家族の思いや職員からの情報を基にモニタリングを行い、見直し作成されている。また、利用者の入退院や状態変化時には、随時見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録に記入すると共に申し送り時に職員間での情報交換を随時し、共有実践している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、ご家族の意向を聞きながら随時状況の変化に伴いできる限り柔軟に対応するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事など地域の方を招待したり、地域のボランティア、家族の方達に参加して頂き一緒に楽しみながら交流、協働している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は本人、家族の希望で行う。ご家族が受診に付き添う場合は受診依頼表を活用し情報を伝えている。 | ホームでは、協力医による月2回の往診と、利用者の状態変化時には電話での相談等、24時間の連携体制を築いている。ホームには、看護師1名が勤務しており、利用者の健康状態を把握している。また、希望があれば、歯科往診を受ける事も可能である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日誌や申し送りを活用しお互いに情報交換している。医療連携の看護師にも相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療連携を行っている。又情報交換なども行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に事業所のできる事は説明している。医療連携、訪問看護、往診医師、理学療法士のアドバイスで支援を行っている。 | ホームでは、看取り支援を行う方針であり、入居時や利用者の状態に合わせ話し合いを行い、意思を確認し同意を得ている。職員は、重度化時や看取りの基本的な事を、ホーム内の研修等の機会に学んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年に一度救命救急講習を受けている。マニュアルを実践に活かしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回実践的な訓練を行っている。AEDの使い方や夜間想定避難訓練も行っている。 | ホームでは、避難訓練は年2回開催されており、消防署職員より避難方法や消火器、火災報知器等の使用法等、指導を受け助言を得ている。また、災害時の備蓄品を備えている。 | 現状、ホームでは、夜間想定等の訓練を行っているが、今後、近隣にある法人との連携体制や地域との協力体制を確実にし、災害時に備える事に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | セルフチェックを活用したり自己の態度や言葉かけの見直しをしている。 | ホームでは、接遇マナーについて学ぶ機会を設けており、利用者に対して不適切な言動があれば、職員同士で注意し合えるよう努めている。また、入浴や排泄介助時には、可能な限り同性介助をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の意思が尊重できるような声掛け、入居者様の理解力にあわせた声掛けをし働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の趣味がいつでもできるように道具を用意したり、場所を提供できるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容を活用したり、家族の協力を得て今まで通っていた美容室へも通っている。希望者には近所の美容室でパーマもかけに行く支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個人の趣好を把握し食べやすい食事の形態にしたり、食器に工夫したりしている。方付けや準備はできる事は本人にして頂き、できないところを支援して一緒に行っている。 | ホームでは、利用者は職員の支援により、メニュー決めや調理、片付け等できる事で参加しており、職員も同じテーブルで利用者と食事をしている。また、行事毎のメニューや、利用者の状態に合わせたロミ、キザミ等での提供もしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事チェック表を作成し把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアをするように努めている。歯科往診が定期的にあり指導してもらっている。定期的に義歯使用の方は洗浄剤を使用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個人のパターンを把握し誘導している。場所が分からない方ようにトイレとわかりやすく明記している。 | 利用者には排泄が自立している方もおり、一人ひとりの状態に合せチェック表を活用する等、必要な支援を行っている。また、職員は、利用者の排泄が改善するように、申し送りや全体会議等を通じて検討を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に合わせて対応し、家族の方の協力により便秘予防の飲食物を個別に摂取したりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人の希望を優先している。介護者の性別にも配慮している。 | 入浴は、基本週2回ではあるが、失禁等による汚染時には、シャワー浴で清潔を保持している。拒否される方に対しては、曜日や時間に配慮しながら、気持ち良く入浴してもらえるように努めている。また、入浴時には、リラックスした雰囲気の中で会話を楽しんでもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は決めず、個々で対応している。居室の温度調整をしたり、冬場は湯たんぽを使用している。お昼寝も本人の希望で対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服一覧表、服薬チェック表にて毎回確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の個性に合わせて趣味を行っており実行できるよう支援している。季節の行事など準備段階から一緒に行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望時にはできるだけ対応している。又ご家族の協力も得る事ができる。 | ホームの利用者は、日常的に職員の支援を受けながら、散歩や近隣のスーパーへ買い物に出掛けている。現状、初詣や喫茶店等にホームから出かけているが、家族が定期的にホームを訪れており、家族と利用者で外食等へ出掛ける事が多い。 | 現在、ホームでは、家族にも参加を呼び掛け、日帰り旅行を企画している。今後、利用者と家族にとって楽しい思い出になる旅行を支援される事に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族の同意があれば金銭の持ち込み可能。買い物の希望にも対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望時はその都度電話対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関や庭に季節の花を植えたり飾ったりしている。廊下や壁、リビングにも季節に応じてレイアウトしている。室温や湿度にもこまめに調整している。 | ホーム内には、利用者が家族と一緒に作った作品が飾られていたり、行事開催時の写真が掲示されており、賑やかな雰囲気になっている。また、ホームには畑があり、利用者も職員と一緒に野菜を育てている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや椅子に思い思いに座って頂き自由な空間を作るよう工夫している。一人になれる空間に椅子を置いておき居場所を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族様に使いなれた衣類、食器、家具等持参して頂き使用している。又アルバムや思い出のある物も持って来て頂いている。 | 居室には、自宅からの馴染みの家具等を持ち込む事が可能であり、生活習慣や安全に配慮しながら、利用者一人ひとりに合わせた居室を作るように努めている。また、家族の写真等を飾る事で、落ち着いて過ごせるようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下、トイレ、浴室の安全には配慮し場所の明記やその位置に工夫し個々の残存機能を活かせるように工夫をしている。 | | |

(別紙4(2))

事業所名 医療法人寿光会グループホーム藤岡

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 2 月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---------------------------|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | | 職員、個々の年齢差や経験に幅があり能力にも差がある | 施設内外での勉強会や必要であれば個別に指導できるような体制を作る | 内部研修や外部研修に積極的に個々のレベルに合わせ参加してもらう | 12ヶ月 |
| 2 | | 職員間の信頼関係を築く | 職員の定着を図る | 職員の長所を業務に活かす。担当した仕事は任せ、認め合うことで自主性を重視し、お互いに助け合うような職場環境作り。 | 12ヶ月 |
| 3 | | レクリエーションの充実 | 現在もレクリエーションは行っているがより多様なレクリエーションを考えたり外へ出る機会をさらに増やす | レクリエーション担当者を中心に職員全員での企画提案を行っていく | 12ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |